



淞雲

第6号

- 2 ● 「附属図書館医学分館長に就任して」 医学分館長 高島利一

電子情報をナビゲートする！

3 ● MyLibrary

5 ● e-Journals Access Page

4 ● Shimane LINKS

7 ● 新OPAC

News

- 8 ● 附属図書館企画展示・講演会

「絵図の世界－出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図」（本館）

- 9 ● 本学教員著作等寄贈資料

しまだい資料探訪（4）

- 10 ● 『延喜式』と『出雲神社巡拝記』 小林准士

- 12 ● 学生エッセイ

- 13 ● 新任職員紹介

- 14 ● 図書館からのお知らせ

情報メディアルーム / プリンターの設置 / 各種申込みはWebから /
学生のメールアドレス登録 / 事務組織名称変更 / リユース市 / 検索講習会 /
図書館利用証と入館カード / 「本の交換広場」1周年 / 医学部創立三十周年記念事業
大森文庫室改修 / 卒業生から図書の寄附 / 学外利用者統計

附属図書館医学分館長に 就任して

医学分館長 高島 利一
(医学部内科学第四教授)



4月1日付けで、附属図書館医学分館長に就任いたしました。前任の吉村安郎教授から分厚い資料とともに引き継ぎの説明を受けましたが、今ひとつわからぬことが少なくなく、皆様のご援助を得ながらやっていきたいと思っております。

最初の仕事は、学生用図書を選択でした。今年度から授業料の1%相当額が学生用図書購入費として配分されましたので、これからは安定的に学生用図書の充実をはかることができます。各講座から10万円を目安として推薦していただき、医学分館運営委員会で選定しました。ただし、年度初めにすべての図書を一度に購入するのではなく、新刊書や希望図書の購入等に柔軟に対応できるように、段階的に選書していきます。今年度の重点整備図書は化学とし、選定については吉田教授に相談しました。その他、OSCE、地域医療、知財についても関係する先生方に推薦をお願いしました。

分館図書の現状については、学術雑誌は冊子体でなく、電子ジャーナルとすることになっております。Elsevier (ScienceDirect), SpringerVerlag (SpringerLINK) など11出版社と契約し、約7,000誌を提供できるまでに充実しています。加えて、医学系電子ジャーナルサイトとして、BMJ Journals Online (BMJ Publishing Group), Thieme Connect, Medical collection (Georg Thieme Verlag), Karger Online (Karger), LWW Online Fixed 100 (Lippincott Williams & Wilkins) を提供しています。この内2006年から契約しましたLWWには、AMAなどの学会誌が多数収録されています。

医学関連領域の国内電子ジャーナルについては、7月10日までメディカルオンラインのトライアルを行いました。トライアル期間中のダウンロード件数も多く、医師、看護師、学生などの期待が大きいと考えられ、今後、導入実現に向けて努力いたします。

なお、電子ジャーナルを利用しやすくするために、リンクリゾルバであるSwetsWiseを導入しました。これは医学文献データベースのPubMedと電子ジャーナルを効果的に結びつけるもので、データベースの検索結果から、[SHIMANE LINKS] ボタンをクリックすれば論文を見ることができます。また、島根大学所蔵検索OPACへのリンク、文献オーダー

へのリンクも設定されています。電子ジャーナルおよびデータベースの利用促進のため説明会を随時開催し、電子情報の長所を十分に活かせるようにします。

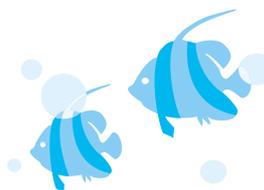
分館図書館は本学の建物のなかでももっとも耐震性が弱く、耐震工事をすることになりました。これと併せて、身障者エレベーターの設置、トイレの改修などの付帯工事を行う計画もあります。この際には、閲覧スペース、書架スペースを拡充できるように設計したいと考えています。

医学部三十周年記念事業の一部として改修しました大森文庫室は、全身麻酔によって乳癌摘出手術に成功した、華岡青洲口述の医書「乳岩弁症」、「瘍科瑣言」など貴重な古医書を多数揃えております。重要な医学史料コレクションであり、これを活用しての医学史研究を支援するため、研究開発室を設けることになりました。

地域へのサービスとしては、(1)社会人の学術情報利用機会を確保するため、夜間開館や土日開館を維持・継続する、(2)島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会を開催し、メディカルオンラインの購読のためのコンソーシアムを結成する、(3)島根県病院図書室セミナーを開催し、職員の資質の向上を図る、(4)島根地域図書館連絡会の活動の充実と、出雲地区内での大学図書館、公共図書館の連携協力を推進する、などを計画しています。

統合により2名減となりましたが、現在6名の分館員が、皆様に気持ちよく図書館を利用していただけよう頑張っています。利用者の要望も、カウンターで随時お聞きしております。皆様のご協力を得て、さらに充実した図書館を目指します。

(たかばたけ としかず)



電子情報をナビゲートする！

電子ジャーナルやデータベースの増加に伴い、膨大な電子情報にアクセスできるようになりました。検索プロセスの異なるこれらの電子情報を一元的に管理し、効果的な検索を行うための2つのナビゲートシステム「Shimane LINKS」「e-Journals Access Page」と、パーソナルサービスを志向する「MyLibrary」、そして新しくなった蔵書検索システム(OPAC)の機能についてご紹介します。



MyLibrary

MyLibraryは、図書館が提供するサービスをユーザ自身がカスタマイズして、自分だけのポータルサイトを構築できるサービスです。申込みや照会などの図書館サービスを中心として、よく使うデータベースなどの電子リソースのメニューやWebサイトのリンク集を作成することができます。

図書館TOPページ → 蔵書検索 → MyLibrary

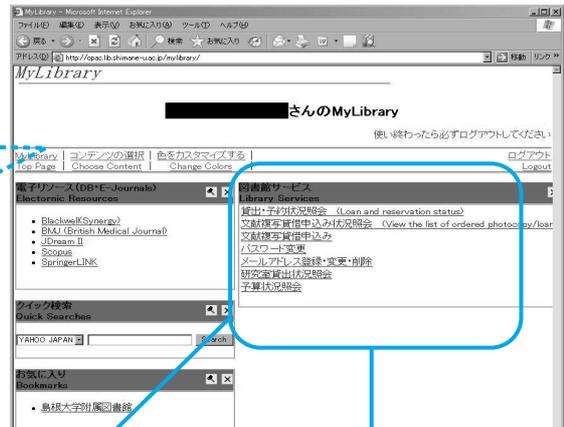


■ ログイン画面

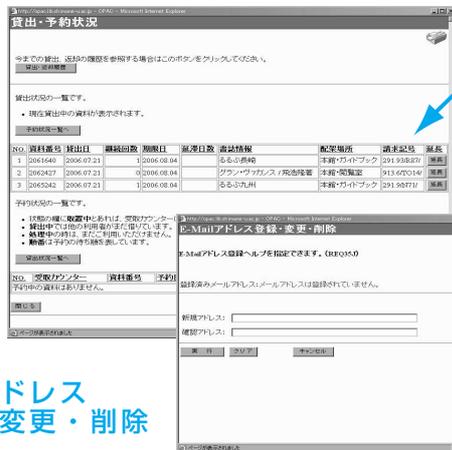
- *利用者ID…学生証の番号。最初のアルファベットは大文字(例:L123456)です。(教職員は図書館利用証の番号。)
- *パスワード…学生は生年月日(例:20060601)が初期設定されています。教職員でパスワードが不明の時、または変更したパスワードを忘れた時は、図書館へお尋ねください。

■ MyLibrary メニュー

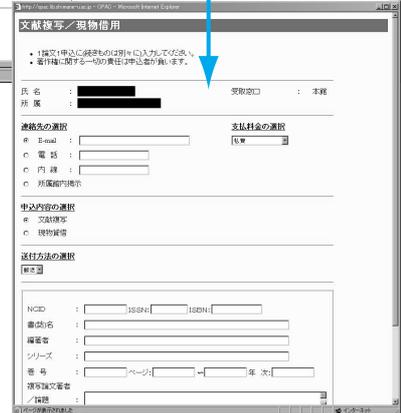
- * 電子リソース
よく使うデータベース等
- * クイック検索
プルダウンから選択してクイック検索
- * お気に入り
- * 図書館サービス
貸出・予約状況照会 研究室貸出状況照会
文献複写・相互貸借申込み/状況照会
予算状況照会 パスワード変更
メールアドレス登録・変更・削除



■ 貸出・予約状況照会画面



■ メールアドレス登録・変更・削除

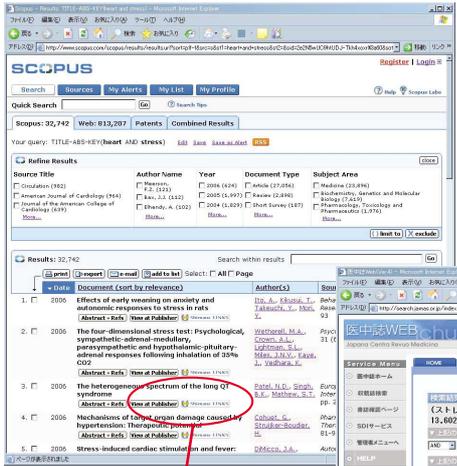


■ 文献複写・相互貸借申込み画面

Shimane LINKS (学術論文の総合ナビゲートシステム)

Shimane LINKSは、学術論文を効率的に入手するための、学術論文の総合ナビゲートシステムです。データベースを利用した雑誌論文の検索結果から、電子ジャーナルのフルテキスト(論文全文)、学内OPAC、文献複写依頼画面へナビゲートする、これまでにない画期的なシステムです。

■ データベース検索 (Scopus)

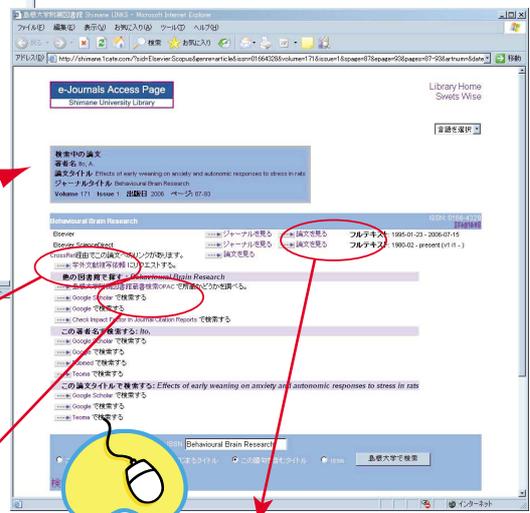


(医中誌WEB)

● Shimane LINKS が利用できるデータベース

- Scopus
- Jdream II
- PubMed
- Current Contents Connect
- 医中誌WEB
- Ovid [Agricola, CINAHL, EBMR, MLA, PsycINFO]
- SwetsWise
- Google Scholar
- * CiNiiは“e-Journals Access Page”のみ

■ Shimane LINKS画面



■ 学外文献複写依頼

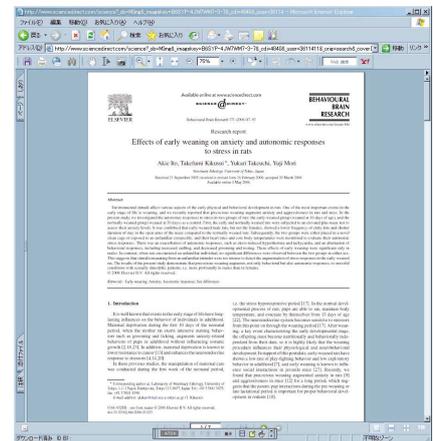
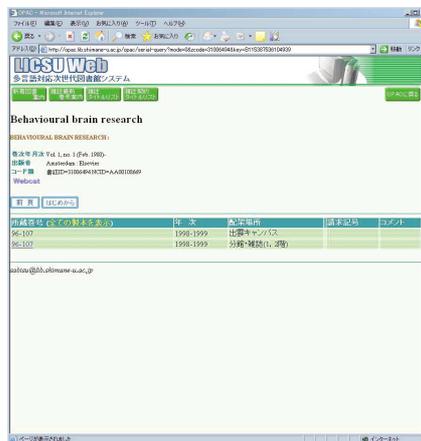
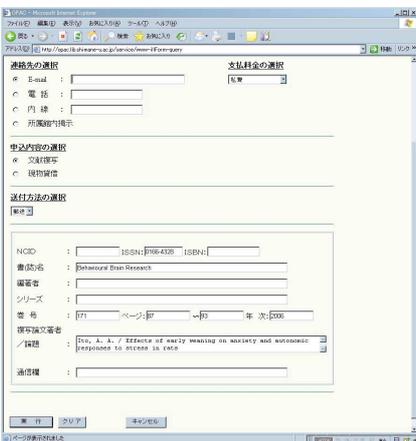
電子ジャーナルが利用できず、論文収録雑誌も所蔵していない場合は、その雑誌を所蔵している大学に対して、文献複写依頼をします。

■ 所蔵状況 (OPAC)

電子ジャーナルを閲覧できない場合、該当論文が収録されている雑誌(冊子体)の学内所蔵を確認します。

■ フルテキスト

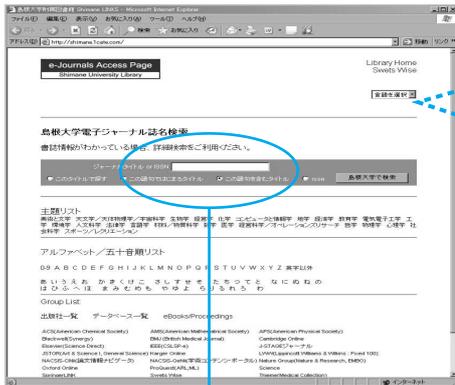
電子ジャーナルを閲覧可能な場合、全文を表示します。



e-Journals Access Page

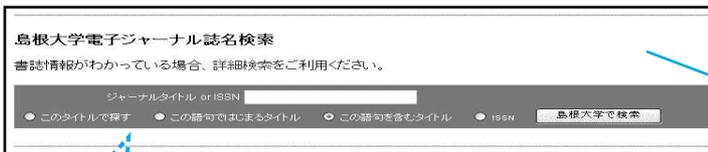
e-Journals Access Pageは、電子ジャーナルを誌名・主題・出版社等、様々なルートから検索でき、目的の論文への効率よいアクセスをサポートします。全文ダウンロードはもちろん、ジャーナル詳細情報、本学OPACへのリンクなど、論文入手に必要な情報も提供しています。ここでは、誌名キーワード検索と分野別検索から、論文本文へアクセスする方法をご紹介します。

図書館TOPページ → 電子ジャーナル → e-Journals Access Page

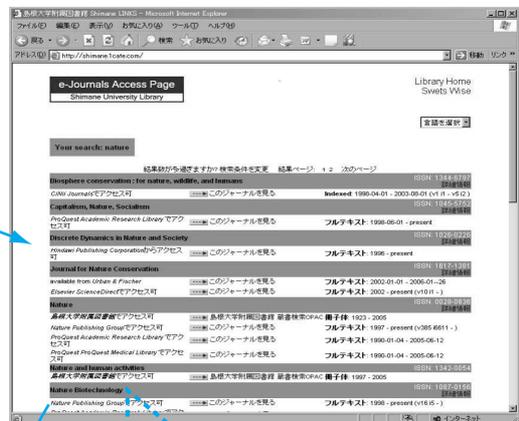


- TOP画面メニュー
- 電子ジャーナル誌名検索
- 主題リスト
- アルファベット/五十音順リスト
- Group List
- (出版社一覧/データベース一覧)

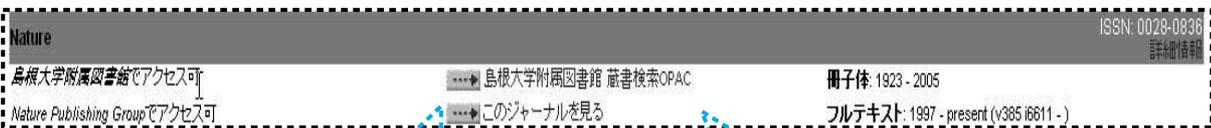
< 誌名キーワード検索 >



ジャーナルタイトルやキーワードを入力してください。収録誌が多いため、キーワード検索が有効です。
(日本語は漢字検索のみとなります)
ISSN検索もできます。



■ 検索結果画面
ジャーナルリストが表示されます。



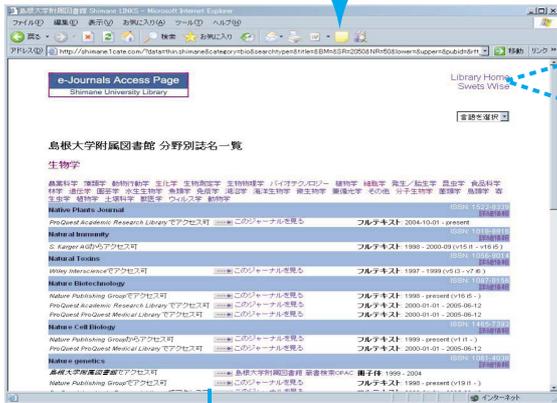
ジャーナルホームページへ
(次ページ)

OPACへのリンク
本学の所蔵状況を確認できます。

< 分野別検索 >

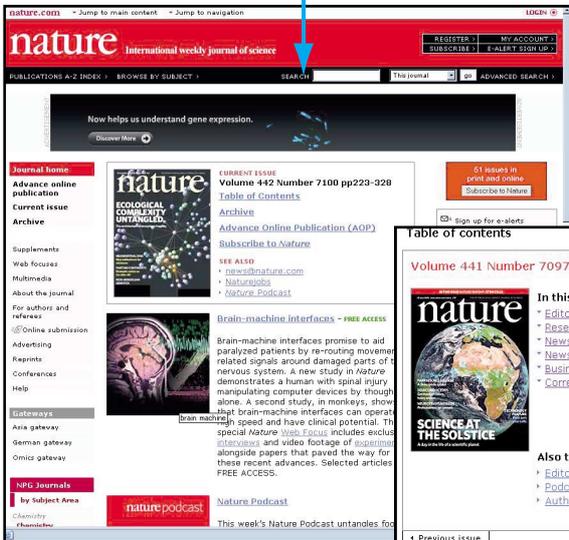
主題リスト(細区分あり)

美術と文学 天文学/天体物理学/宇宙科学 生物学 経営学 化学 コンピュータと情報学 地学 経済学 教育学 電気電子工学 工学 環境学 人文科学 法律学 言語学 材料/物質科学 数学 医学 経営科学/オペレーション/リサーチ 哲学 物理学 心理学 社会科学 Sports and Recreation



■ 分野別誌名一覧画面

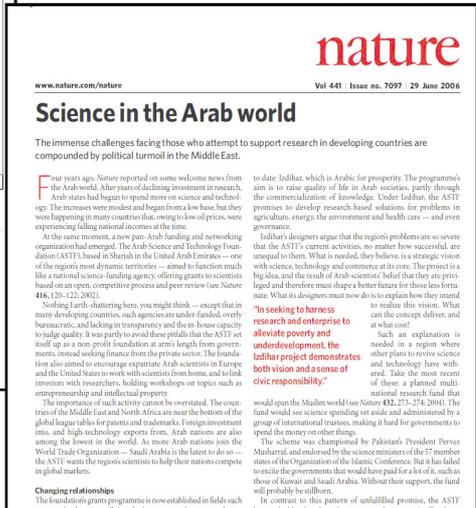
選択した分野に属するジャーナルリストが表示されます。さらに分野を絞りたいときは、細区分をクリックしてください。



ジャーナルホームページへ

目次

フルテキスト(PDF)



e-Journals Access Pageの詳しい情報については、現在作成中の「学術情報リテラシーテキスト」でご紹介します。ぜひご覧いただき、電子ジャーナルをもっと身近なツールとして活用してください。

蔵書検索システム (OPAC)

島根大学所蔵の図書・雑誌を検索するOPACが装いを新たにしました。
全国の大学図書館等が所蔵する資料も同じ画面で検索できます。

図書館TOPページ → 蔵書検索 → OPAC

■キーワード入力画面

ローカルデータベース → 島大の所蔵

国立情報学研究所 → 全国の大学図書館等

図書・雑誌, 和洋の選択で対象を絞る。

キャンパス単位で所蔵を確認。

詳細検索画面へ

詳細なマニュアルはこちらから

図書を選択すると、検索結果で図書を優先的に表示します。

全て選択をクリックするか、チェックを入れて選択し、まとめて詳細表示させることもできます。

検索結果が一覧表示されます。書名(雑誌名)をクリックすれば詳細表示画面になります。

■検索結果(図書)の見方…所蔵の有無と配架場所の確認

本館・閲覧室 → 図書館内にあります。
分館・2階図書 → 医学分館にあります。

図書は主題別(内容別)に分類されています。(本館はNDC<日本十進分類法>で、分館は主にNLMC<米国国立医学図書館分類法>によります) 書架を探すときに参考にします。請求記号は「背ラベル」の番号です。

巻次	配架場所	請求記号	登録番号	状態	コメント	ISBN	刷年	利用注記
	本館・閲覧室	430.7/O24	7042220	貸出中[2006.6.7]		4759808310	2001	
	分館・2階図書	430/I2U	3128610			4759808310		

貸出中の図書に対して予約ができます。ID/パスワードを入力して予約通知方法[MAIL or 館内通知]を選んで[送信]します。
ID：学生証の番号(例：L123456)(教職員は図書館利用証番号)
パスワード：学生は生年月日を初期設定(例：20060704)
教職員でパスワードが不明、または忘れた時は、図書館へお尋ねください。パスワードはMyLibraryで変更できます。

貸出予約

化学のレポートと論文の書き方 小川雅弥監修代表(は現在貸出中、または予約中です。予約をキャンセルすると予約登録が行うことが出来ます。)

予約した資料がいつ返却されるのかわからない場合は、カウンターまでお尋ね下さい。

利用者ID: 007019
パスワード: *****
予約通知方法: MAIL

[送信]

絵図の世界

—出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図—

2005年11月21日(月)～12月2日(金)

絵図展示・公開プロジェクト
ワーキンググループ

昔、図書館は「本の番人、無料貸本屋」と陰口をたたかれたことがありました。確かに当館も長い間、「聞かれたら、尋ねられたら」と受身の態勢であったと思います。もちろん、よりの確な回答、迅速な対応ができるように研鑽してきたことは間違いありませんが、しかしやはり、受動的に偏っていたことは否めません。

平成16年に島根大学が国立大学法人として新たな歩みを始めたことは、大学そのものが、更なる変容を決意したことでもありました。そして図書館もこれを契機に、独自に様々な業務改善を行い、“何が求められているか、何ができるか”を模索してきました。その結果、1年余りの準備期間を経て、昨年度は3つの企画展示・講演会「教育者としての小泉八雲」(本館)、「島根にもたらされた華岡流医術」(医学分館)、そして「絵図の世界—出雲国・隠岐国・桑原文庫—」を実施したのです。

「絵図の世界—出雲国・隠岐国・桑原文庫—」では、本館が所蔵する未公開の絵図を中心に18点を選定し、展示しました。

附属図書館3階に設置した展示場には、初公開の貴重な資料も展示されるとあって、連日多数の絵図ファンが訪れ、熱心にのぞき込む姿が見受けられました。また、これらの貴重な絵図をデジタル化するプロジェクトの成果の一部や、城下町松江の時代変遷を簡便な操作で閲覧できる「マルチメディアテーブル」システムも紹介されました。



学生による展示説明

11月26日(土)には、学生による展示説明会を行いました。18点ある絵図1枚1枚について、担当の学生から熱心な説明がありました。



講習会

また、同じ日の午後から、松江キャンパスにおいて、竹永三男法文学部教授の司会により講演会を開催しました。松尾寿島根大学名誉教授、林正久教育学部教授、池橋達雄島根史学会会長、藤原茂島根地理学会会員、船杉力修法文学部助教授の5氏を講師に招き、ふるりの歴史・地理に関する講演をしていただきました。期間中の展示会入場者は707名を数え、講演会への参加者は160名と、広い教室がいっぱいになる盛況ぶりでした。

今回の絵図展は、学内外の研究者、学生、職員の協力があったはじめて開催することができたといえます。解説・講演を担当する研究者、教員の指導のもとで、解説図、現代比較地図を作成しプレ講演会を実施した学生、ディスプレイやチラシに工夫を凝らした職員等々、実に多くの人たちに関わっていただきました。また、展示会場や講演会でボランティア参加してくれた学生にも非常に助けられました。更に、他大学、県立図書館等から貴重な絵図、データの提供を得られたことなど、まさに大学ならではの成果であったと思います。

展示会を見に来てくださった市民の方から声を掛けられることも一再ではなく、会場に詰めていた職員、学生も、大いに励みになりました。

3つの“能動的”な試みは、今後の図書館の進むべき方向性のひとつを示してくれたと言えるでしょう。

「**絵図の世界** —出雲国・隠岐国・桑原文庫の絵図—」
島根大学附属図書館 編

news!

7 月出版

絵図展示・公開プロジェクトワーキンググループ

平成18年度の企画として、昨年実施した展示・講演会を、図録集として出版公開することになりました。図版は本館所蔵の18点に加え、島根県立図書館、出雲市立海辺の多伎図書館、国立公文書館、岡山大学他所蔵の絵図を参考図として、多数フルカラーで収録しています。

城をとりまく堀尾家臣団の氏名や寺社名などを解読した「松江城下町絵図〈堀尾期〉」のトレース図は圧巻です。また、5人の研究者による講演集は、昨年講演会に参加された方にとっては、より理解が深まることと思います。

絵図は、その時代、その地域の為政者・有力者の求めにより、管理が目的で描かれたものが殆どですが、永い時空を経て芸術品に昇華されました。手にとってその美しさとふる里の歴史を堪能してください。



本学教員著作等寄贈資料紹介 (平成17年12月～18年6月受入)



ご寄贈くださいました先生方に厚く御礼申し上げます。
今後とも著作等を刊行の際には、図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

横田 綏子 (法文学部)	現代国際金融
加藤 克夫 (法文学部)	西洋近代における個と共同性
渋谷 聡 (法文学部)	ミュンヘンの子育てサークル
丸橋 充拓 (法文学部)	中国の歴史 上: 古代-中世
	中国の歴史 下: 近世-近現代
	唐代北辺財政の研究
小林 准士 (法文学部)	お殿様の御成り
芦田 耕一 (法文学部)	出雲国名所歌集 (山陰研究シリーズ.1)
三保 忠夫 (教育学部)	数え方の日本史 (歴史文化ライブラリー.210)
福田 哲之 (教育学部)	中国出土子文献興戦国文字之研究
相良 英輔 (教育学部)	櫻井家たたらの研究と文書目録
福島 晟 (生物資源科学部)	水文地形の計量評価と洪水流出モデル
野中 資博 (生物資源科学部)	上下水道施設のコンクリート防食実務
	建設材料：地域環境の創造
山口 龍之 (法務研究科)	疫学的因果関係の研究
渡辺 久丸 (名誉教授)	現代オーストリア憲法の研究
小林 祥泰 (病院長)	内科学レビュー
	内科疾患診療マニュアル
橋本 道男 (環境生理学)	脂質栄養と健康
北垣 一 (放射線医学)	ポケットブック画像診断入門



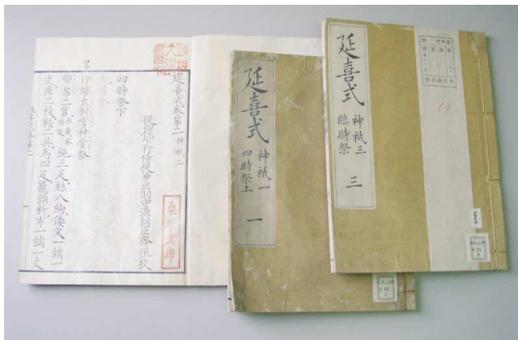
『延喜式』と『出雲神社巡拝記』

小林 准士 (法文学部 歴史と考古教室)

桑原文庫の中に、松江藩が文政11年(1828)に刊行した『延喜式』と、渡部彝編『出雲神社巡拝記』という書物がある。この二つの書物は島根大学にのみ所蔵されているわけではないが、松江藩と深い関わりがあるので紹介しておきたい。

『延喜式』とは、平安時代中頃に日本の国家が編纂した法令集で、50巻からなる。江戸時代になると写本や刊本が流布したが、諸本間の字句の異同が多かった。このため、その校訂を企図して刊行されたのが、松江藩版(雲州版)の『延喜式』である。この『延喜式』は、校訂にあたって参照した諸本の異同について記した『延喜式考異』と、その附録(『考異附録』)を合わせると61巻になる。

ところで、松江藩(松平家)の藩主としては、第7代の治郷(不昧)が茶道で有名であるが、第8代の斉恒と第9代の斉貴も独自の趣味を持っていた。特に斉貴が鷹狩りを好んだことは比較的知られている。松江藩が『延喜式』を刊行した文政11年の時の藩主は、この斉貴であった。しかしこの書には、「従四位下行侍従兼出羽守源朝臣斉恒校」と記載があるように、『延喜式』の校訂と刊行は、前藩主斉恒が始めた事業であった。斉貴の序文によれば、若くして亡くなった斉恒の遺志を継ぎ、家臣の藍川慎らの尽力により、斉恒の死の6年後に完成したのである。



『延喜式』

さて、このように、『延喜式』の刊行は、日本の古典籍の研究に関心のあった斉恒の個性と関係したが、校訂と刊行は藩の事業として取り組まれていた。例えば、斉恒生前の文政4年(1821)正月、松江藩は意宇郡西組の村々(現在の松江市南西部)に対し、延喜式の古い版本や写本の所在を調査させている(拙稿『宍道町史』通史編下巻, 189頁)。領内の村々に通知して、校訂の対象とする諸本を収集しようとしたのであろう。

また、文政11年に出版した後も、松江藩は『延喜式』に関連する調査については継続した。出版の翌年となる文政12年(1829)には、渡部彝こと、松江石橋町の小笹屋良兵衛という人物が、藩の家老である三谷権大夫・乙部九郎兵衛から資金援助を受けて、松江藩領内の「式内式外」の神社を調査している。このうち「式内」の神社とは、延喜式神名帳に記載があり、古代には国家が祭祀に関与していた由緒ある社を指していた。一方、「式外」の神社としては、この場合、おもに『出雲国風土記』に記載のある社が想定されていた(「佐藤家古文書」旧島根県史編纂資料近世筆写編、島根県立図書館蔵 などによる)。風土記とは、古代国家が国郡を単位にして編纂した地誌であるが、『出雲国風土記』は、諸国の風土記の中で、現在唯一残る完本として知られている。

渡部彝はこの調査において、領内の神社の神主を訪ね、神社の由緒を記した文書などを収集したようである。そしてこれらの文書をもとに、出雲大社の神主で、本居宣長に学んだ国学者でもあった千家俊信の監修を受けた上で、その成果を本にして出版する予定であった。この本は、平仮名書きにして庶民にも分かりやすくし、藩領外にも販売することが目指されていた(前掲「佐藤家古文書」参照)。

しかし、この計画のうち、調査の成果を千家俊信に見せて指導を仰ぐという部分は実現しなかった。渡部彝によれば、『出雲国風土記』に記載された399

の社を現在の神社に比定していくとなれば、領内の神主の間で争いが起こることは避けられず、そのことを危惧した千家俊信が関与を避けたのである(『出雲神社考』無窮会神習文庫蔵)。

俊信に指導を断られた渡部彝が、代わりに接近したのが浜田藩に仕えた国学者である岡部春平であった。偶々、金築春久かねつきはるひさが神主を務めていた都牟自神社つむじ(都武自神社, 出雲市国富町)で、弟子を相手に『出雲国風土記』を講説していた春平のものを、渡部彝は訪ねて教えを請うたのである(同前)。

その後、岡部春平は松江に拠点をおいて、渡部彝と弟子の金築春久らとともに出雲国の中を廻り、『出雲国風土記』に関する調査を行った。そして、その成果は春平の著である『出雲風土記考』としてまとめられたが、この書の神社に関する記載を抜粋し出版することを渡部彝は画策した。しかし出版には失敗したようで、この書は『出雲神社考』という写本のかたちで現在残されている(同前)。

『出雲神社考』の出版は果たさなかったものの、岡部春平らや自らの調査を踏まえて、渡部彝が編集し出版したのが『出雲神社巡拝記』であった。出版したのは天保4年(1833)のことである。松江楓之舎蔵版とあるが、渡部彝が版元と考えてよいであろう。ほかに上梓補助者として、意宇郡来海村(松江市宍道町上来待)の犬山尚平、楯縫郡島村(出雲市島村町)の吉田綱武、松江の吉川正平の名前が記されている。また、版木の作成者(彫工)は京都の井上永辰、本の販売店(売弘所)は松江石橋町小笹屋良兵衛(渡部彝と同一人物)と同京店京橋詰岡田屋重蔵であった。



『出雲神社巡拝記』

この『出雲神社巡拝記』は、『出雲国風土記』記載の社を主に取り上げて、神社の名前・祭神・由緒を

記したものである。ただ、『出雲国風土記』の記載順序にはとらわれず、松江を発着地として領内を巡って参拝できるように神社を配列し、神社間の距離なども記載してあった。このように、旅行者に対する案内記としての性格を持っている点が、この書の特徴である。

この時代、出雲国では観音霊場(出雲札所)巡りは盛んであったが、神社だけを巡拝するという習慣は一般的ではなかった。神社が風土記に記載されているかどうかということも、広く意識されていたわけではない。そうした中、松江藩による『延喜式』の出版に関連した調査、国学者らによる『出雲国風土記』の研究の進展を受けて、石橋町の町人であった小笹屋良兵衛が、『出雲国風土記』に地域のアイデンティティを求めて出版したのが『出雲神社巡拝記』であった。

この書がどの程度普及したのか、また実際にこの書を手旅をした人々がどのくらいいたのかについては、まだ十分に明らかにできていない。しかし、実際にこの書を携えて出雲国内の神社を参詣をした人が江戸時代にいたことは確かである。例えば、岡部春平の友人でもあった人物に、後藤夷臣ごとうひなのみという本居大平門下の国学者がいた。彼は安芸国山県郡本地村(広島県北広島町)に住んでいたが、天保年間には毎年のように出雲国を旅行していた。そして天保4年の旅行では、『出雲神社巡拝記』の記載内容を、現地を訪ねて検証するなどしていたのである(『八雲路日記』三、東京大学本居文庫蔵)。

また、慶応2年(1866)には、平田(出雲市平田町)の小村和四郎重義という人物が、『出雲神社巡拝記』の示した順路通りに旅したことがすでに紹介されている(関和彦『古代出雲への旅』中公新書)。

このように、近世の末期には、松江藩の内外の人々に、『出雲国風土記』に記された古代出雲の世界に対する関心が呼び覚まされていた。渡部彝編の『出雲神社巡拝記』は、そのきっかけをつくった書物の一つであったが、松江藩による『延喜式』の出版を前提に生まれていたのである。

(こばやし じゅんじ)

松江キャンパスから

私と松江と図書館と

—絵図展ボランティアをやってみて—

砂川 彩 (法文学部 社会文化学科3年)

昨年の秋に図書館で絵図展が開催される際、会場で来客者を案内する学生ボランティアを探しているという話を聞いた。小さい頃から私は展覧会や展示会といった類のものが大好きで、時間を見つけては博物館や美術館に足を運んでいた。その際私はいつも「見る側」、つまりお客さんであったので、いつもと違う立場から展示会に関わってみようと思い、ボランティアの話を受けることにした。

事前に仕事の内容や機器の使い方を先生や図書館の方に教わったが、当初は不安でいっぱいであった。歴史コースに所属しているとはいえ、私には絵図についての知識はほとんどない。そのうえ島根県の出身でもないので、展示物に関連して松江の城下町や隠岐、大森町などについて細かく聞かれたらどうしようかと悩んでいた。出来る範囲で勉強し、あとは臨機応変に対応しようと割り切った。

自分は役に立つのか、という不安な気持ちだけではなく、私には強みもあった。それは松江に対する興味と、初対面の人とでもすぐに打ち解けられることである。縁あって松江という地で生活するようになってから今年で3年になる。言葉では言い表せないこの不思議な土地に、私はとても魅かれていった。もともと人と接することが好きなので、初めての土地でも人とつながりを作ることに苦労しなかった。

私が説明や話をした人は、年配の方が多かった。特に昔から松江に住んでいる方は、町並みの昔と今を比較した展示や、松江市の江戸・明治・現在を画像で見ることのできるマルチメディアテーブル「松江歴史マップ」に興味深そうに見入っていた。「昔はここに自分の住まいがあったが、今はこっちに住んでいる。」とか、「白濁の様子はあまり変わってない。お姉さんは天神祭りに行ったことがある？」などと気軽に話しかけてくれた。嬉しくなって、ついつい話し込んでしまうこともあった。自分が説明する以上に教えてもらうことも多く、絵図を通して松江や隠岐について勉強でき、松江がさらに好きになった。

この絵図展は、図書館の企画展示取り組みの一環として開催された。私にとって図書館は本を借りたり勉強したりするところであったが、この絵図展に関わったことで、貴重な資料を保存し、多くの人（特に地域の人）に広く公開するという重要な役割もあるのだという一面に触れた。研究者と地域住民が一体となり、絵図から町並みを再現する「絵図のデジタルコンテンツ化」の取り組みは、新しい歴史学・地理学といえるのではないかと感じた。その公開の役割を担う図書館の活動に関われたことを嬉しく思う。今後また同じような話があれば、迷わず名乗り出たい。

(すながわ あや)

図書館を楽しむ

佐藤 桂子 (教育学部 学校教育課程I類2年)

大学生になって、レポートやレジュメを作成するうえで図書館をよく利用するようになりました。自分にとって必要な内容の書かれた本を探し、読むためです。ただ、このようにレポートなどで特定の本を探すこと以外でも、私は図書館を利用します。それは「なにか」を探すときです。

「なにか」を探す、と言っても、具体的にはただ本の棚を無計画に眺めるだけです。本の題名はもちろん、どういった分野の本を借りるのかすらも決めずに、普段自分がなかなか前に立つことのない棚を選んで眺めます。例えば、私は教育学部の国語コースが主専攻なので、数学や理科系の本にはほとんど親しみがありません。その親しみのない本が置かれている棚をあえて見に行ってみるのです。ただそこで本を眺めるだけでも、私にとっては様々な発見があります。眺めているうちに目に留まった本を取り出して、読んでみる。そうするだけで、新たに自分が興味を持てるジャンルを発見することができます。その他にも、以前なんとなく疑問に思っていたことについて書かれた本を見つけることもあります。

普段小説しか読まない私にとって、このようにして新しい考え方や知識に触れることで、自分の世界を広げることができます。ひとつのことについて詳しく調べることも、自分でも全く考えていなかったことを発見することも、私にはどちらもとても重要です。レポートのように、決まったテーマを深く調べていくことが増えた今、前者については行う機会が多くなりました。しかしその反面、私の狭い世界がなかなか広がっていかなくなったことも事実です。私は様々な棚を巡って「なにか」を探しながら、自分の世界の幅を広げていきたいと考えています。私にとって新しいものを知ることは、なにより楽しいのです。

私の図書館を楽しむ方法は、自分でも分からない「なにか」を探すということです。たくさんの蔵書の中には、必ず自分が知らず知らず求めている「なにか」があります。大学図書館と公立図書館では、蔵書の種類や数が大きく異なります。それぞれの図書館で本棚をめぐりながら「なにか」を探すこと、おもしろいと思いませんか？

(さとう けいこ)

新任職員紹介

昌子 喜信（学術情報主担当）

4月に、九州大学から郷里である島根に帰ってきました。九州大学では5年間、新キャンパスに新しい図書館を作る仕事をしていました。島根大学ではサービス部門を担当することになり、数年振りに現場で働けることを大変嬉しく思っています。

3ヶ月が経ちましたが、島根大学図書館は、非常に活気があると感じます。学生や教職員の利用が多く、他大学に比べて利用マナーが良いと思います。学生用図書の充実、電子ジャーナル（EJ）やデータベース（DB）の整備など、基本的なインフラが整っていることも、図書館利用の活性化の理由として考えられます。大学会館や食堂などが集まる一角という好立地条件もありますが、図書館がキャンパスライフの中にしっかりと根付いているようです。

一方で、図書館をさらに使いやすくするために、いくつかの課題も見えてきました。

- ①図書館の狭隘化が深刻で、増え続ける蔵書に対応できなくなっています。書架スペースが不足し、分散配置など資料の配置がわかりにくくなっており、資料の効率的な利用のためにも緊急に対策が必要です。
- ②図書館サービスの1つ1つを、もっと分かりやすく提示すること。館内資料の配置やEJ、DBの使い方など、パンフレットやホームページ上で、分かりやすい説明が必要です。
- ③EJやDBを使いこなすための、学術情報リテラシー講習会の充実。この4月から、図書館ガイダンスや情報検索講習会を定期的開催しています。学術情報検索など基本的なリテラシーを身に付けることは、大学だけでなく、社会に出た後も生涯役立つものとなります。できるだけ多くの皆さんに参加していただけるよう、方法を考える必要があります。

よりよい図書館を目指して、できることから1つずつ着実に取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。（しょうじ よしのぶ）

中井 陽子（コンテンツ形成主担当）

この4月より島根大学附属図書館に勤めることとなりました。まだまだ戸惑うことも多いですが、自分の夢である図書館員という職業に就けたこともあり、先輩職員の方たちに支えられながら鋭意学ぶ日々を送っています。現在携わっている主な仕事は、書庫の遡及入力、新刊図書の目録作成などです。毎日古い本から新しい本まで様々な本を手を、端末と向き合いつつ、バーコードラベル貼りや分類番号の付与、請求ラベル貼りに勤しんでいます。

利用者の皆さんと直に接する機会の無い仕事ではありますが、皆さんの手に本が届くまでに欠かせない仕事です。新刊図書は勿論のこと、遡及入力が進むにつれて、日々OPAC上で見られる図書は増えています。利用者の皆さんが上手くOPACを使って、自分に必要な図書を見つけられるようにお手伝い出来れば幸いです。

まだまだ現状把握にも事欠く状態ではありますが、少しずつ皆さんのお役に立てるように努めていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。（なかい ようこ）

松本 律子（利用サービス主担当）

図書館利用サービスへ勤務し始めて、この7月で1年になります。主な仕事は、カウンターでの図書の貸出・返却や、図書館利用の案内、研究室図書の貸出・返却などです。

カウンターにいと、予想外の出来事が日常的に起こり、図書と関係の無い問題の対応に追われることもあります。それ以外の時間も、書架の乱れ直しや、書架から書架への大量の図書の移動作業があり、体力を要する仕事が多だと言っても過言ではありません。それでも毎日楽しくお仕事をさせていただいているのは、ひとえに、風通しが良く明るい職場環境のおかげです。

まだ未熟ですが、周囲の方々に温かく見守られて、図書館での勤務を1日1日大切に過ごしています。今後も、利用者に喜んでもらえる図書館であるように、更なる努力を続けたいと思っています。（まつもと りつこ）



図書館からのお知らせ



● 情報メディアルーム開設 ●

(学術情報主担当)

図書館1階の学習室をリニューアルし、情報メディアルームとして、開館時間中開放しています。31台のパソコンと、利用カード式のプリンター1台を設置しています。蔵書検索，データベース検索はもちろん，レポート作成などにもご利用ください。

利用の際は，総合情報処理センターで発行されたID，パスワードが必要です。情報メディアルームは検索講習会などにも使用します。



● プリンターの設置について ●

(学術情報主担当)

利用カード式のプリンターを3台設置しました。設置場所は，1階情報メディアルームとカウンター前のOPAC/Webコーナー，2階新聞閲覧コーナー（バックナンバー）の前です。学生のみなさんは，総合情報処理センターで配布された利用カードを使用してください。モノクロ，カラー，A3，A4の出力ができます。利用カードを使い切ったら，大学生協売店で購入できます。

● 各種申込みはWebから ●

(資料整備・学術情報主担当)

松江キャンパスの学生の皆さんも，Webから文献複写・現物貸借の申込みができるようになりました。申込みの際は，図書館ホームページ（申込み>本館への申込み>文献複写申込方法）を参照していただくか，図書館内に置いてあるチラシを見てください。

図書の購入依頼（教員），購入リクエスト（学生）などもホームページから申し込めます。各種申込みは，できるだけWebをご利用ください。

● メールアドレスの登録について ●

(利用サービス・学術情報主担当)

学生のみなさん！メールアドレスを登録して図書館を便利に使いましょう。予約をした図書が返却されたら，すぐにメールで連絡が届きます。返却期限が過ぎている図書があったり，文献複写を依頼したものが届いた時なども，すぐに連絡が来るので便利です。

登録方法は，図書館ホームページ（申込み>本館への申込み>メールアドレスの登録・変更方法）を参照していただくか，図書館内に置いてあるチラシを見てください。

● 図書館事務組織の名称変更 ●

(総務・会計主担当)

4月から事務組織の名称が変わりました。

	旧 名 称	新 名 称
本館	図書課 総務係	図書情報課 総務・会計主担当
	〃 図書情報係	〃 資料整備主担当
	〃 雑誌情報係	〃 〃
	〃 電子情報係	〃 コンテンツ形成主担当
	〃 利用サービス係	〃 利用サービス主担当
	〃 学術情報係	〃 学術情報サービス主担当
医学分館	〃 医学情報管理係	〃 医学情報整備主担当
	〃 医学情報サービス係	〃 医学情報サービス主担当

● 図書館蔵書リユース市 ●

(資料整備担当)

1月15日～18日に、大学会館において「島根大学図書館蔵書リユース市」を開催しました。廃棄予定の図書を再利用してもらうことを目的に1冊105円で販売したところ、2,670冊もの図書に新しい持ち主が見つかりました。生協を通して参加していただいたボランティアの学生さんたちの活躍のおかげで、市民の方々からも好評を得ました。第2回は10月頃を予定しています。

● 検索講習会を開催しました ●

(利用サービス・学術情報・医学情報サービス担当)

本 館

講習会名	開催月	対 象 者	参加者	内 容
授業連携	4～5月	①法経学科1年 ②電子制御システム工学科1年 ③農業生産学科2年 ④教育・廣兼ゼミ生3年	9 4 8 3 3 8 4	図書館概要説明 OPAC検索法 図書館利用法 情報検索 (③④)
図書館ツアー	4～5月	学部学生	1 1	図書館利用法
OPAC利用説明会	5月	学部学生	6	OPAC検索法
情報検索講習会 入門編	5～7月	学部学生・大学院生全般	3 4	図書の探し方 OPAC・Webcat Plus NDL-OPAC・CiNii MAGAZINEPLUS
情報検索講習会 中級編	5～7月	学部学生・大学院生全般	3 2	雑誌論文の探し方 CiNii・Scopus Current Contents JDream II

医学分館

講習会名	開催月	対 象 者	参加者	内 容
オリエンテーション	4月	大学院新入生	5 0	図書館利用法 電子ジャーナル・データ ベース・文献入手法
授業「原書講読」	5～6月 (10回)	看護学科3年生	7 1	医中誌Web・CINAHL メディカルオンライン
「卒業研究」講習会	5月	看護学科4年生	6	OPAC検索法 医中誌Web 文献の入手法
「看護研究Ⅱ」 研修会	6月	島根県看護協会会員	6 5	医中誌Web
図書館利用および 事務説明会	6月	講座等事務担当者	2 9	図書館事務・図書館 の利用法

● 図書館利用証と入館カードが別になりました ●

(医学分館)

3月の図書館システム更新に伴い、図書館利用証と、時間外に入館するための入館カードは別カードとなりました。発行元も変更になりましたのでご注意ください。

● 「本の交換広場」が1周年を迎えました ●

(医学分館)

不要になった図書を自由に交換できるよう、昨年6月、図書館棟3階への階段脇に「本の交換広場」を設けてから1年がたちました。3月には卒業生から多数の提供があり、この1年間に広場へ提供された図書は約500冊にもなりました。90%以上に新しい持ち主が見つかり、広場は有効に活用されています。

● 医学部創立三十周年記念事業 ● (医学分館)

医学部創立三十周年記念事業において、大森文庫が大きくとりあげられました。3月26日の記念講演会では、講師の一人、大森文庫研究者の梶谷光弘出雲市立窪田小学校長により寄贈の経緯をはじめとする大森文庫概要が紹介されました。

昨年10月の講演会「島根にもたらされた華岡流医術—大森文庫から見た江戸後期の診療」はDVDとなり、当日はダイジェスト版を放映しました。DVDは関係者をはじめ、島根県内の公共図書館等に寄贈することができました。

また、大森文庫は、島根大学キャンパスマジューリアムの一部門となったことから、大森文庫を紹介する25枚のパネルを作成し、分館1階ロビーや2階通路に展示しています。



● 大森文庫室の改修 ● (医学分館)

大森文庫保存のため、医学部のご支援により平成18年2月に大森文庫室を全面改修しました。室内壁面に杉板を貼り、エアコンを取り付け、専用木製棚に資料を収納しました。

この部屋は展示機能も備えており、医学部創立三十周年記念講演会では、華岡青洲書掛軸や大森文庫紹介パネルを展示しました。

● 卒業生から図書の寄附 ● (医学分館)

平成17年度医学科・看護学科卒業生から、卒業記念として図書の寄附がありました。例年行われている記念植樹にかわるものです。3月23日の平成17年度学位授与式の後に行われた祝賀会で、医学科・看護学科の卒業生代表から分館長へ目録が贈呈されました。

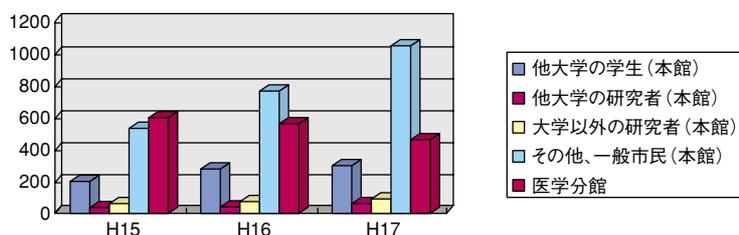
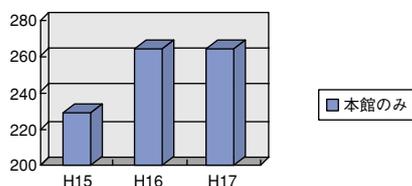


● 学外者へのサービス・貸出冊数 ●

図書館では学外の利用者を受け入れています。一般市民の方々の利用が多く、貸出冊数も年々増加しています。本館では平成16年度から1,000冊を超えており、分館でも急増しています。

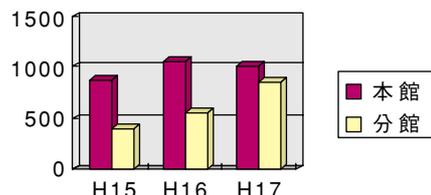
資料閲覧申込数

利用証発行数



[表紙写真 落合輝満]

貸出冊数



島根大学附属図書館報「淞雲」 第6号
平成18年7月発行

発行 島根大学附属図書館広報編集チーム
本館 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089
医学分館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095